

1. 活動日時

令和5年5月13日(土)8:55-17:15

2. 活動場所

石川県珠洲市内避難所（正院小学校、正院公民館）、珠洲市正院地区の独居高齢者宅

3. 被害状況

地震発生8日目。地震発生以来、5月の能登半島を震源とする震度1以上の地震は91回発生している（5月10日現在）。政府の地震調査委員会は「地震活動が活発な状態が続いていて、この状況は当分続くと考えられる」との評価がまとめられ、能登半島の北側の海域でも地震活動がみられるとして、強い揺れに加えて津波にも注意を呼びかけている。

（出典：NHK NEWS WEB <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230512/k10014066131000.html>）

- ・ 人的被害：死者1名、重症2名、軽症35名
- ・ 住宅被害：全壊15棟、半壊13棟、一部損壊602棟（5月12日現在）

（出典：総務省消防庁 石川県能登地方を震源とする地震による被害及び消防機関等の対応状況（第16報））

4. 天候

晴れ時々曇り 最高20度、最低12度

5. 活動の実際

8:55 珠洲市健康増進センター（保健医療福祉調整本部）にてミーティング

【全体の情報共有】

- ・ 被害状況は、全壊15棟・半壊15棟・一部損壊602棟となっている。罹災証明申請があった家屋に対して、税務課が5班体制で巡回する予定である。
- ・ 正院小学校体育館の避難所は、教育への配慮から閉鎖となる。現在避難している方々(10名程度)は、応急修理が完了した正院公民館に明日の夕方より移動してもらう。正院小学校体育館は、避難者の移動完了後に清掃を予定している。
- ・ 正院公民館の段ボールベット等のレイアウトを本日10時30分より検討を行う。
- ・ 公営住宅へ1家族が移る予定であったが、ガスが未開通であり16日以降に移動してもらうこととなった。
- ・ 本日の訪問は約180世帯を計画し、26班体制で実施した。主に正院地区を支援保健師のチームで、蛸島地区は珠洲市総合病院のチームで回った。
- ・ ボランティアセンターでは、明日の午前中まで事前登録者のみで活動し、午後からは事前登録不要でボランティアを受け入れる。
- ・ 野球場等がゴミの仮設処分場となっていることを伝えていく。

9:20 【巡回チーム間での情報共有内容】

- ・ 巡回チームは珠洲市から依頼を受けて巡回している旨を伝える。
- ・ 珠洲市から依頼を受けて巡回している旨を伝える。
- ・ 継続支援が必要な方は、連絡先を確認する。
- ・ 対象者が不在の場合は、不在者用チラシ（罹災証明・熱中症・ごみの受け入れ場所など）をポストインする。
- ・ 巡回で回った世帯には、必要時、水分補給用のペットボトルを渡す。
- ・ 巡回の際の無理な駐車には注意すること。
- ・ 巡回終了後は QR コードにて訪問件数等を入力し、県保健師へ報告する。
- ・ 目標の巡回戸数が途中でも 16 時には活動を終了して戻る。
- ・ 感染対策・交通事故・熱中症に留意する。

【正院公民館避難所のレイアウト】

- ・ 日本災害看護学会、ピースウィンズ・ジャパン、JRAT で、避難所のレイアウトを行った。
- ・ 和室と洋室、共有スペースなど、住民の希望にできるだけ添えるように検討した。

9:45 【巡回チーム内での情報共有・調整・担当確認】

- ①正院公民館避難所レイアウト：酒井
- ②正院小学校避難所環境チェック：朝田・金谷
- ③巡回中心：佐藤・窪田

9:55 【正院小学校避難所にて環境確認】（担当：朝田・金谷）

- ・ 避難者 12 名 日中避難者 0 名 退出者なし
- ・ 正院小学校避難所環境チェックリスト用いて清掃（換気・トイレ・玄関・床・テーブル）、アルコール消毒残量チェックと補充、ペーパータオル補充、トイレトペーパーの補充、ゴミの回収を行なった。
- ・ おにぎり 8 個の食べ残しがあり廃棄した。
- ・ びわ 3 袋、ポン菓子 1 個、駄菓子が共有コーナーにあり。

10:00 【75 歳以上在宅避難独居高齢者巡回訪問】（担当：佐藤・窪田） 12 件訪問

12:11 朝田・金谷正院小学校避難所での衛生管理などの活動終了

12:50 【正院公民館への避難所移転準備、避難所レイアウト確認】

学会派遣メンバーで、新しく避難所となる正院公民館のレイアウトを再度確認した。

13:30 【巡回訪問】

○朝田・金谷チーム：4 件訪問

- ・ 本人に会えたのは避難所での 1 件のみであった。
- ・ 息子宅へ避難している方 2 件、在宅で家族が対応している方が 2 件であった。
- ・ 不在で家の様子が気になる家が 1 件あった。家の状況は家屋診断の判定用紙は貼っておらず、自転車も放置され（相当前のカレンダーが入っている）、郵便物も溜まっている。玄関ドアは施錠がされておらず開放したままで、玄関先も散らかって足の踏み場もない。トイレトペーパーの塊があった。

○佐藤・窪田チーム：16 件訪問

- ・ 不在が 6 件で、継続支援が必要な方が 3 件、本人や家族が確認できた方が 7 件であった。

<継続支援が必要な方①>

独居の 90 代女性：家屋診断で赤の用紙が貼ってある家に住んでいる。家屋の外観は傾いており、ブロック塀も崩れている。玄関周辺はガラスが割れ、散乱している。主な生活場所である食堂や居間は物が散乱している。本人は、杖歩行で転倒リスクが高いため、継続支援が必要である。

<継続支援が必要な方②>

独居の 80 代男性：収縮期血圧は 170 台で高めである。地震発生前から、納屋のような車庫に動かない車を設置し、その中で車中泊している。住環境はかなり劣悪で、土足で生活している。入浴も近くの施設に行けていると話すが、尿臭もあり、衣服も汚染しており、衛生的に問題があり、生活環境を整える必要がある。

<継続支援が必要な方③>

独居の 80 代女性：収縮期血圧は 170 台で高めである。1 階の壁がひび割れ、雨漏りしている。ブルーシートもなく対応が必要である。

16:00 活動終了・保健師へ報告、情報共有

17:00 【全体終了コアミーティング】(酒井・窪田)

<避難所に関して>

- ・ 正院小学校に避難している住民は、明日の 13 時に正院公民館へ移動する予定である。珠洲市総務課職員が対応する。午前中には感染対策物品など必要なものを移動し、避難者と避難者の荷物を 13 時から移動する。退所後の掃除は市職員で行う。公民館への避難者には生活サポートチームが支援する。

<巡回訪問>

- ・ 本日訪問は 26 チームで、283 件実施し、138 件不在であった。土曜日ということもあり、家族や息子が荷物の片付けに来ていた。罹災証明や自宅再建が気になりになっている。

<緊急対応>

- ・ ブルーシート要望の方には、市役所に対応して頂いた。
- ・ 罹災証明の手続きのために市役所に行けない事情があれば、健康増進センターから市民課に連絡して対応することになった。

<その他>

- ・ 市職員も巡回がしているが、保健・医療・福祉チームで対応する必要がある場合は確認する。
- ・ 明日、市保健師は休みとなる（職員も被災しており片付けも必要なため）
- ・ 県庁責任者からの挨拶：早ければ来週の水曜日までは 75 歳以上の高齢者に対して全戸訪問できると考えられるため、協力願う。
- ・ 日本災害看護学会の明日の訪問は、本日の積み残しと、宝立・三崎あたりから巡回予定。

17:15 終了（ホテルへ）

6. 考察

本日は、在宅独居高齢者の巡回に市町の保健師チームも参加し、26チームで巡回することができた。県内からの支援が増えることで、巡回のスピードもアップし、発災時から活動しているコアメンバーも順に休息が取れるようになり、先の見通しが立てやすく、今後の支援計画も具体的になってきている。

被害にあった独居高齢者は、重い家財道具を片付けることもできず、また、今後の住居について先を見通すことも困難で、罹災証明などの手続きにも戸惑っているため、個々の状況に応じた支援が必要になっている。罹災証明などの手続きができない方には、市がサポートする体制も検討されており、常にきめ細やかな対応に心掛けている。

現在、避難所は正院小学校体育館の1か所であるが、子どもたちの学習の場であるため、明日から正院公民館に移動となる。公民館は畳の部屋もあるため、半分は畳の上で生活できるスペース、半分は寝起きが容易になるように段ボールベッドのスペースとし、住民のニーズに合わせるようにレイアウトした。中央に共有スペースやテレビを見る空間もあり、コミュニケーションが図れるようになっている。また、感染者用の部屋なども確保することができた。複数の職種の団体で話し合いながら、避難所レイアウトを行うことの重要性を実感した。

今後、倒壊の危険性のある住家に住んでいる方々や車中泊の方々、罹災証明の手続きに困っている人へのきめ細かい支援が更に必要となる。

7. 課題

- 1) 避難所移転による新しい生活環境へのスムーズな適応調整
- 2) 地元支援者が活動しやすい支援体制
- 3) 倒壊の危険性のある住家に住んでいる方々や車中泊の方々などリスクの高い方々への支援の充実

8. 参考写真



保健医療福祉調整本部会議



避難所共有スペース



段ボールベッド用エリア



畳のエリア